

## 『 クリエーターの話 ～ 私のイメージの源泉 』

スペースデザイン部会員 雨山 智子

### 「ことば」と表現

幼い頃、手でものを作ることが好きだった私は、端切れで人形の服を作ったり編み物をしたりして遊ぶことが多かった。洋裁学校を出ていた母に連れられて、マーケットの中にある生地屋さんで目がチカチカするまで布を探すことも楽しかったし、小学校のクラブ活動でも刺繍など手芸を選択していた。運動音痴で、今では想像もできないほど人と話すのが苦手だった私にとって、手を動かすことは、気持ちを発散する一つの手段だったのだと思う。

中学2年生の時、なぜか「美術」をやってみたくなった。お手本通りに作る手芸的なものに少し物足りなさを感じていたのかもしれない。そこで、正規の授業の他に選択する課外科目を「美術」にしてみた。2週間に1度のその科目は、同じ敷地内にある高等学校の美術の先生が教えにきていたのだが、正直何を制作したのか憶えていない。先生が、ご自分が描いたという「混雑した雨の街で、ひしめきあっている傘の上をカタツムリが旅している」1枚の絵を見せてくださったことが印象に残っていた。

そして約8年後に至光社から出版された絵本「なつのひのごごさんじ」の1ページにその絵を発見した時は本当に驚いた。1回だけ見たことがある絵を憶えていた自分に、またその絵が8年もかけて絵本になっていたということ。「まちには ひとが いっぱい あめのおと くるまのおと ひとのはなす こえ みんな どこへ いくのだろう」という少しだけの「ことば」と絵で成り立つページ。説明文ではない「ことば」が視覚的な世界と一体化している表現だと思った。



「なつのひのごごさんじ」至光社  
高岸昇（新制作協会絵画部物故会員）

私のテキスタイル作品は、「光や風」、「水や植物」「時の流れ」を題材としてきた。身近にある自然の光景や現象にイメージが誘発されることが多い。

写真の画像を布に出力して使うようになってからは、「写真を撮る場面」を探すことが一つの工程となっている。公園での木漏れ日、自宅の小さな庭に生える植物や雨水の溜まり、旅先での風景・・・。特に水辺の画像のためには、遠くまで足を運ぶことがある。

そして、エスキースの段階で「ことば」が自然と出てくるかが、制作を進めるための大切な目安となる。「ことば」は作品のテーマであり、最終的に作品タイトルとなるときもある。

1993年の初めての個展「青い風がふく日」、続けて「夢の残像」などは、構想の段階から「ことば」が自然と生まれていた。

また、一番長くテーマとしていた「時を刻む」というシリーズは、主として植物と光の移り変わりを一つの画面にコラージュするような作品構成だが、なかには水を題材とした作品もある。



「時を刻む」 2005年 ワコール銀座アートスペース

2017年個展「祈りのことば 水月花」や2021年個展「時の重なり」もことばの持つ意味と空気感が、作品から生まれる空気感と一致するように考えながら制作している。



「祈りのことば 水月花」  
「時の重なり」

今年の新制作展に出品した作品、「静かな光」は、表現方法は変わっても、上記の「時を刻む」や2016年に制作した「水の祈り」に続く作品であり、テーマとしての「ことば」も、自身の中で連続性を持っていると考えている。



「水の祈り」 2016年 いりや画廊



「静かな光 In the calm light」 2022年 第85回新制作展

知人のアメリカ文学研究者から、時折著書をいただくことがある。その中の一冊にアメリカ現代詩の訳本があり、左ページが英語、右ページが日本語訳の構成になっている。英語は苦手だが、日本語では感じ取れなかったニュアンスが英語で読むことによって伝わってきたり、逆の場合もあり、ことばの持つおもしろみと深さに気づくことが多い。

日常のさまざまな事象や事柄をことばで捉え、作品と一体化できることを、今楽しめるのは、曲がりなりにも制作にかかわる年数を重ねてきたからだろうと思っている。

## 雨山 智子プロフィール



- 1979 文化女子大学卒業
- 1888～ 新制作展 (1995、2003 新作家賞受賞)
- 1993 目黒雅叙園アートプライズ (同 1996)  
個展 (ギャラリーアメリカ / 同 2000)
- 1997 タビストリー新進作家 4 人展 (織絵ギャラリー)
- 1998 素材を追って—繊維によるこころみ  
(世田谷美術館ギャラリー)
- 1999 個展 (ワコール銀座アトスペース)  
( 同 2002、2005)
- 2000 タビストリー新進作家 6 人展 (織絵ギャラリー)  
第 5 回国際掌中新立体造形公募展  
(吹上ホール)
- 2003 素材でつくる空間 展  
(OZONEリビングデザインギャラリー)
- 2005 5P 展 (AU HASARD)
- 2006 5 人展—素材との出会い (画廊るたん)  
玉川高島屋ショッピングセンター  
南館エントランスホール作品制作 (1 年間展示)
- 2007 テキスタイル展  
(玉川高島屋ルーフギャラリー)
- 2010 Reconsider—ファイバーの世界で  
(千疋屋ギャラリー)
- 2013 テキスタイルアート・ミニアチュール 3  
百花百粋 (Gallery 5610)
- 2014 Reconsider II  
(いりや画廊 2016 同III 2018 同IV)
- 2017 個展 (いりや画廊)
- 2019 TEXTILE WORKS 60 (銀座煉瓦画廊)
- 2021 個展 (いりや画廊)

新制作協会会員／日本建築美術工芸協会会員  
恵泉女学園中学・高等学校、東京家政大学 講師